

開催趣旨

今、日本と中国・韓国との間には、竹島や尖閣諸島をめぐる緊張が高まり、武力衝突ないし戦争が起こる危険性すら懸念されている。日本においては第二次世界大戦後、直接、自国の領土をめぐる戦争が起こる危険性はそれほどリアルには感じられてはこなかった。だから、今の危機は、戦後初めてのものと言うことができる。

9・11以来、アフガニスタンやイラクで戦争が起こり、今日の世界では戦争の危険は決して過去のものではない。だから、平和をどのように実現するかは世界的に大きなテーマである。この問題が、日本にとって極めて直接的な自国の問題としても現れてきたと言えよう。

多くの宗教は、戦争によって人命が失われることを回避して、平和を実現しようと願っている。日本においては、第二次世界大戦の経験に鑑みて、平和への祈りもしばしば行われてきた。しかし、再び武力衝突や戦争の危険が立ち現れてきた今、宗教はこの危機を乗り越えるために、どのように考え、どのように行動すべきであろうか？

そもそも、果たして宗教は平和を実現するために貢献することはできるのだろうか？その方法は、祈りだろうか。それとも何らかの行動だろうか。そして、平和とはどのようなものであり、その実現のために必要なことは何だろうか？

こうした問題を考えるために、私たちは様々な宗教の間の宗教間対話を通じて議論していくことにしたい。憲法論議や宗教的な戦争を考えればわかるように、平和をめぐるは、様々な信念の対立があり、そういった信念の対立が戦争や紛争を引き起こしたり加速したりすることもある。

だから、私たちは、様々な信念の対立を超えてこの危機を乗り越える方法を考えるために、多様な立場を代表する信仰者の方々にまずその考えを話していただき、相互の議論を行い、さらに会場の参加者の間でも対話の場を形成して議論を深化させていきたい。

本シリーズの第1回シンポジウムでは、実際の宗教間対話の現場からの報告を通じて宗教間対話の可能性を、第2回では、東日本大震災を念頭に信仰者が災禍に見舞われたときにそれをどのように受け止めればいいのかを、論じた。そこで見えてきたことは、具体的でアクチュアルな問題に取り組むことを通して、諸テーマの宗教的な本質性を明らかにしていくことが、宗教間対話を深化させるということである。第3回目となる本シンポジウムでは、それらを踏まえて、この平和という重要な問題を考えていきたい。

また、もし、「祈り」に意味があるのならば、最後には、信仰者・非信仰者を問わず、また様々な信仰の壁を越えて、平和への祈りの「とき」を持ちたい。この危機を乗り越えるために、多様な立場の方々に参集していただければ幸いである。

日本宗教ネットワーク懇談会 第3回シンポジウム参加 申込書

6月25日までにFAX又はメールにてお申込み下さい。

FAX 03-5465-7888 Eメール s-info@shinshuren.or.jp

フリガナ			
お名前		所属	